

図 16 混合診療に賛成か、反対か

混合診療の解禁に賛成か、反対かという質問に対して、「どちらでもいい」という人が最も多く 36%であったが、「どちらかといえば賛成」「全面的に賛成」をあわせると 68%になり、混合診療の解禁に対して概ね好意的な意見が多かった。

表頭：Q22 混合診療に関する是非

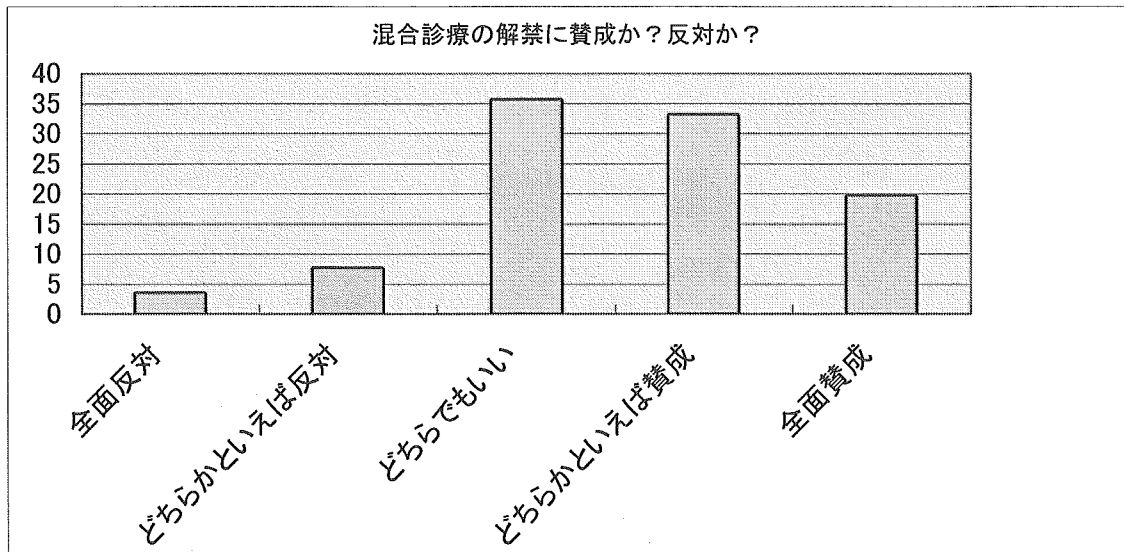


図 17 次に年齢層ごとに、混合診療に対する賛否をまとめた。「全面反対」および「どちらかといえば反対」を含め、概ね反対の人は 50 代が最も多く、15%いた。最も低かったのは 20 代で 9%であるが、年齢層によって大きな違いは見られなかった。「全面賛成」および「どちらかといえば賛成」を含め、概ね賛成の人は 40 代が最も多く、56%いた。しかしこれも各年齢層によって大きな違いがあるわけではない。

表頭 Q2_1：年齢層

表側 Q22：混合診療に関する賛否

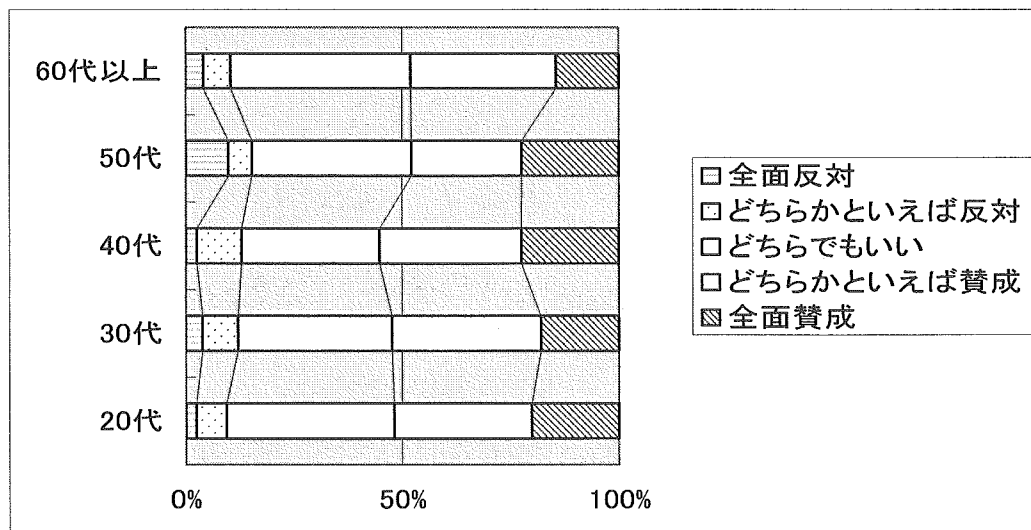


図 18 混合診療に関するイメージ

混合診療に対してどのようなイメージを持っているかきいたところ、「混合診療の解禁は治療の選択の自由を高める」という回答が最も多く、56%であった。また「混合診療の解禁によって重症者が救われる」というイメージを持つという回答も40%ほどあった。対して「混合診療の解禁は医療費を増加させる」が42%、「混合診療の解禁によって医師の都合による医療が広まる」が40%あった。

表側：Q23 混合診療に関するイメージ

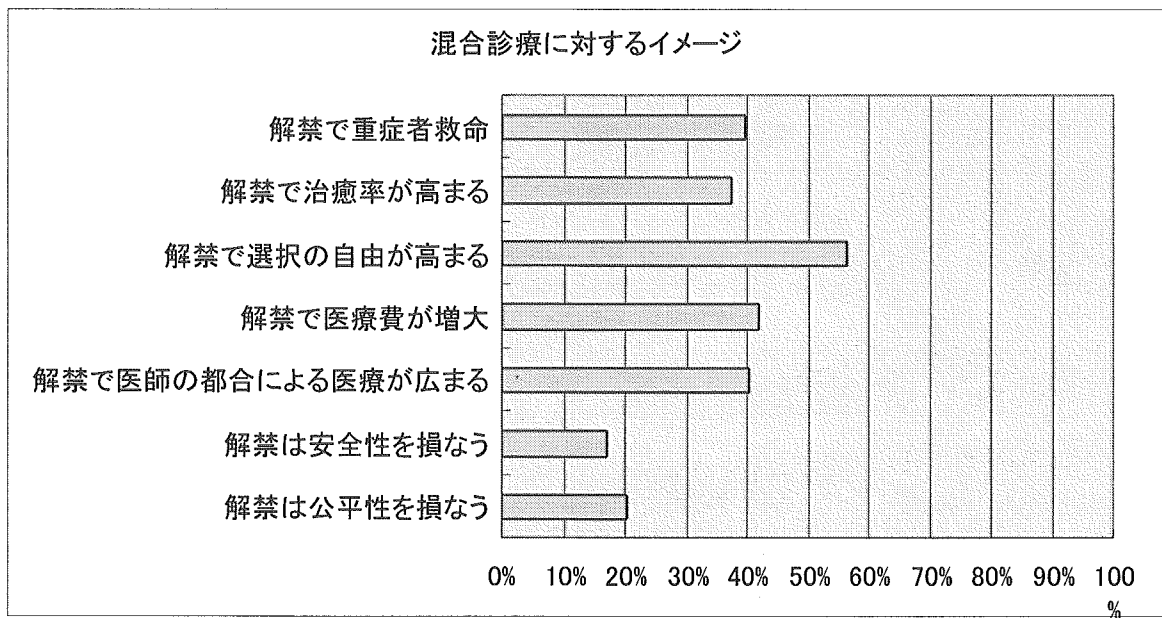


図 19 次に年齢階層別に、混合診療に関するイメージを概観しよう。「混合診療の解禁は公平性を損なう」とのイメージを最も多く持っているのは 60 代以上のひとで、30%ほどいる。「混合診療の解禁で選択の自由が高まる」とのイメージを最も多く持っているのは 50 代で、58%いる。混合診療の解禁に関して、医療費の増大や公平性の喪失、安全税の喪失など、ネガティブイメージを持っているのは総じて年齢の高い層にみられ、年齢が低い層では概ね混合診療の容認で重症者が救われたり、選択の自由が広まるなどのポジティブイメージが多い。

表頭：Q2_1 回答者の年齢 表側：Q23 混合診療に関するイメージ

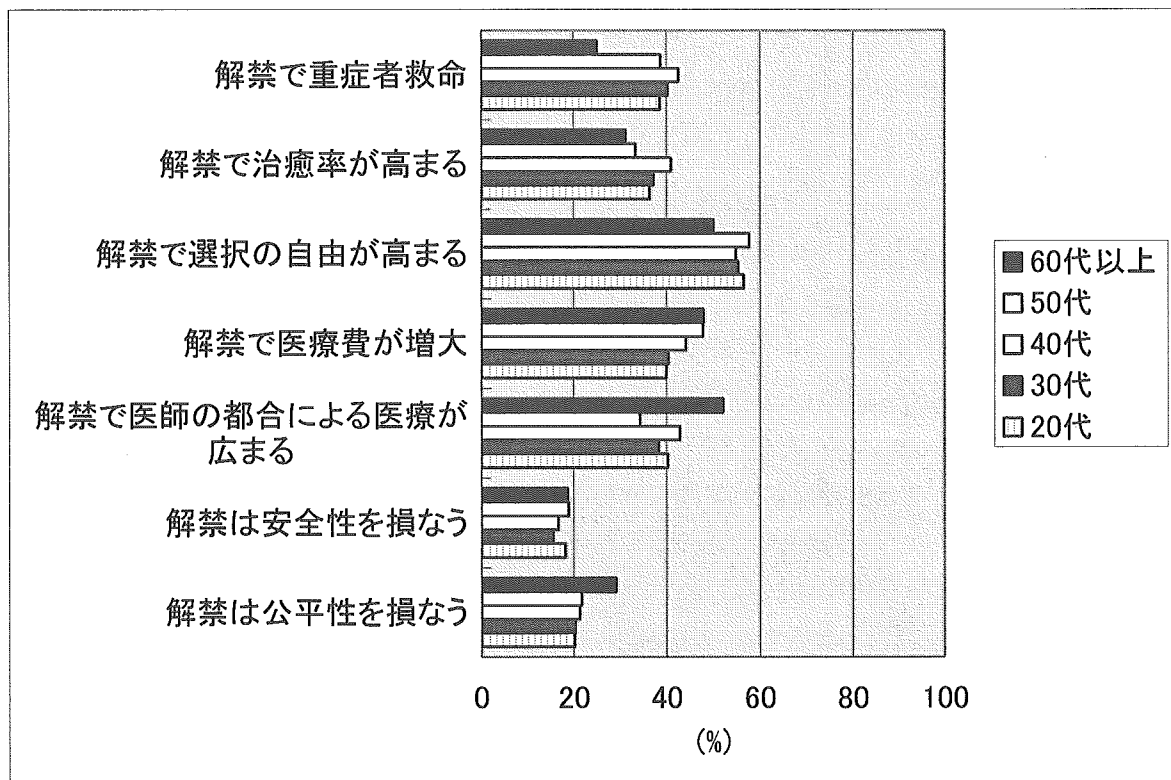


図 20 所得に関する平等意識

以下のような所得の平等に関する質問を行った。

「すべての人々が年収 300 万円での平等の社会」と「貧富の格差はあるが平均的年収は 500 万円程度」の社会とどちらが良いとおもいますか

回答結果は以下の図の通りである。「どちらかといえば貧富の格差はあっても平均年収 500 万円の社会が良い」との回答が、最も多く、34%あった。「貧富の格差があるが平均年収 500 万円の社会が良い」とあわせると、53%ほどになる。最も少ないのが「年収 300 万円でも平等な社会が良い」で 8.5%であった。「どちらかといえば年収 300 万円でも平等な社会が良い」をあわせると、20%ほどであった。

表側：Q24 所得の平等に関する意見

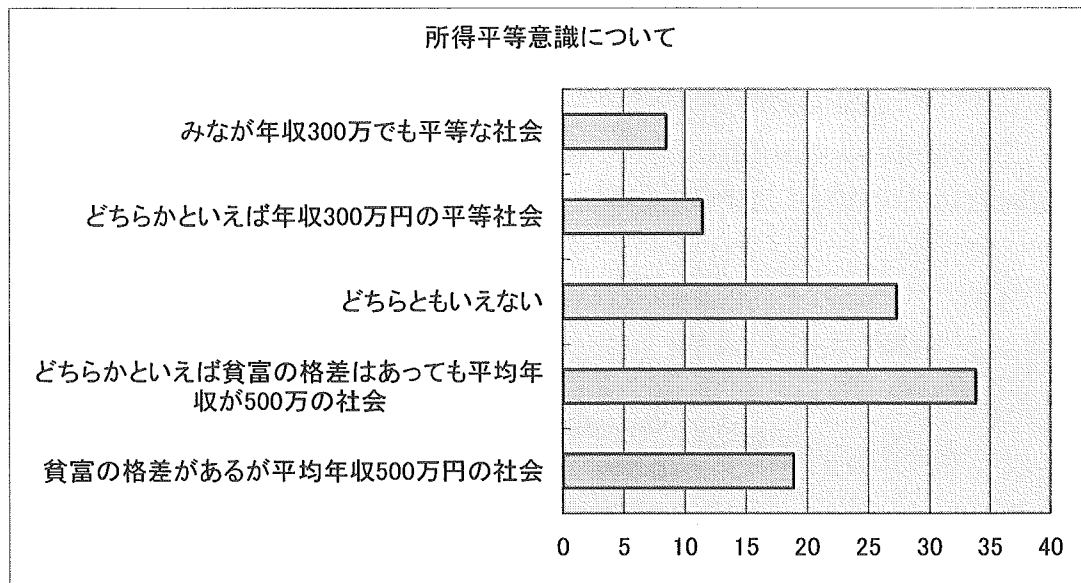


図 21 年齢階層ごとにみた所得に関する平等意識

さらに年齢層ごとにみると、「年収 300 万円でも平等な社会」および「どちらかといえば年収 300 万円でも平等な社会が良い」をあわせて、所得平等な社会を最も望むのは 20 代で、22%を占めた。

対して、「貧富の格差があるが平均年収 500 万円の社会が良い」と「どちらかといえば貧富の格差はあっても平均年収 500 万円の社会が良い」をあわせて、貧富の格差をもっとも容認的であるといえそうなのは 50 代で、56%であった。

表頭：Q24 所得の平等に関する意識 表側：Q2_1 回答者の年齢

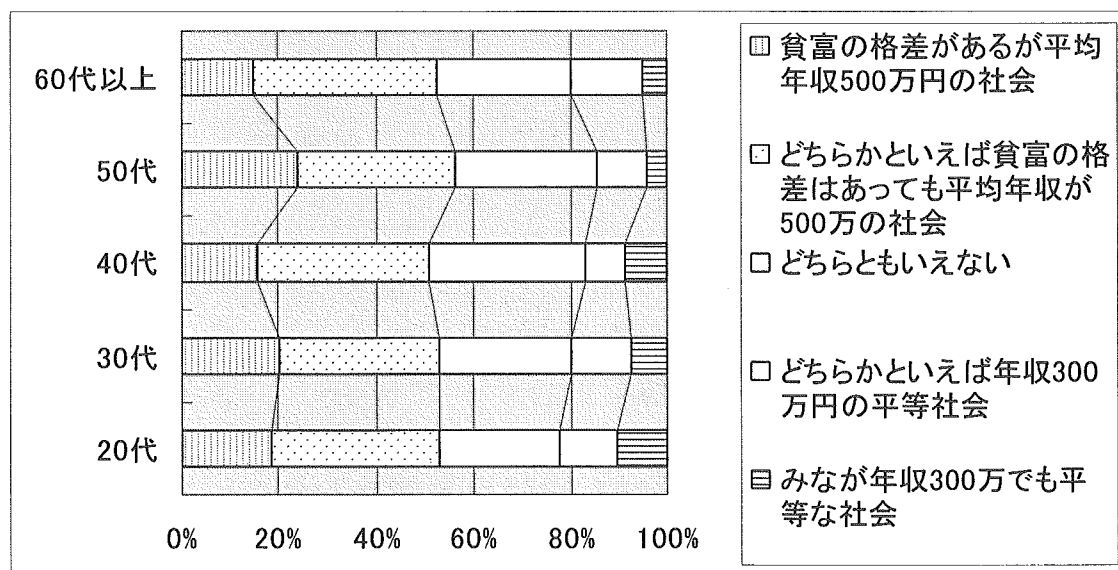


図 22 次に性別ごとに所得に関する平等意識を概観すると、女性のほうが若干、平等意識が強く「年収 300 万円でも平等な社会」および「どちらかといえば年収 300 万円でも平等な社会が良い」をあわせて、23%ほどいた。対して男性は 17%程度である。

「貧富の格差があるが平均年収 500 万円の社会が良い」と「どちらかといえば貧富の格差はあっても平均年収 500 万円の社会が良い」をあわせて、男性は 60%、女性は 45%いた。

表頭：Q1 性別 表側：Q25 所得に関する平等意識

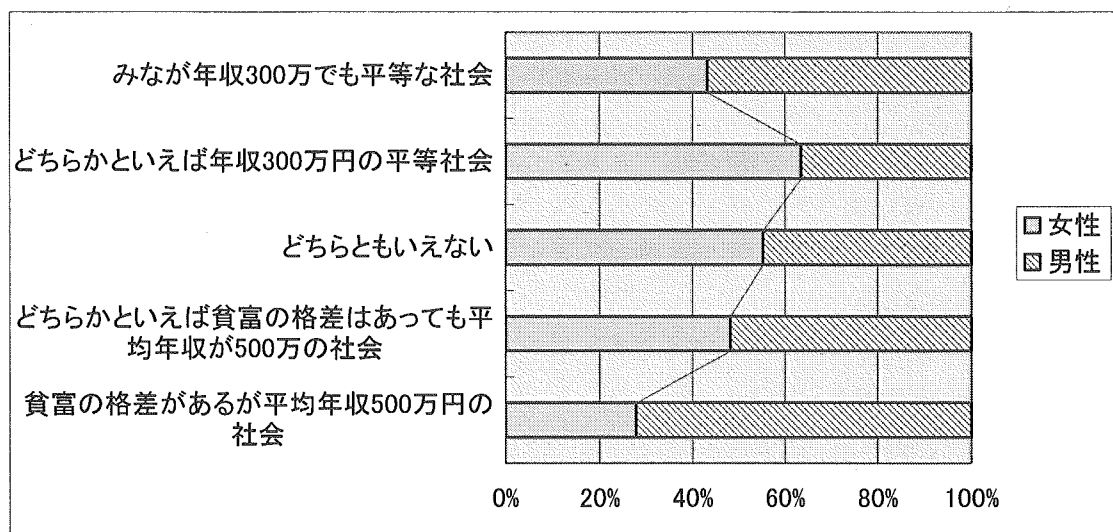


図 23 健康の平等について

以下のような健康の平等に関する質問を行った。

「すべての人々が寿命 50 歳で死ぬ平等な社会」と「人によって寿命の格差はあるが平均寿命は 70 歳」の社会とどちらが良いと思いますか？

回答結果は以下の図の通りである。「どちらかといえば寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」が最も多く、34%であった。これに「寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」を加えると、ある程度寿命格差を容認する立場は 63%ほどになる。対して「皆が 50 歳で死ぬ平等社会が良い」と「どちらかといえば、皆が 50 歳で死ぬ平等社会が良い」との意見はあわせて 10%ほどになる。

表側：Q25 健康の平等に関する意識

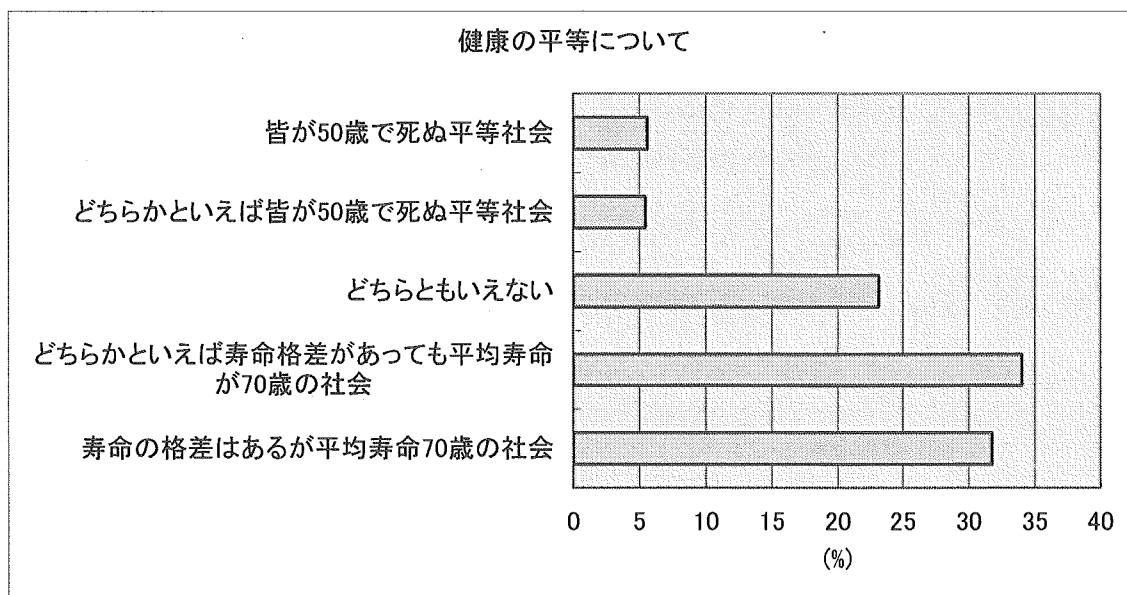


図 24 次に年齢層ごとにみる。寿命格差を容認する傾向が最も強いのは60代で、「寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」と「どちらかといえば寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」をあわせて、74%ほどになる。対して最もこのような立場の人が少ないのは20代で、63%ほどである。

表頭 Q2_1：回答者の年齢

表側 Q25：健康の平等について

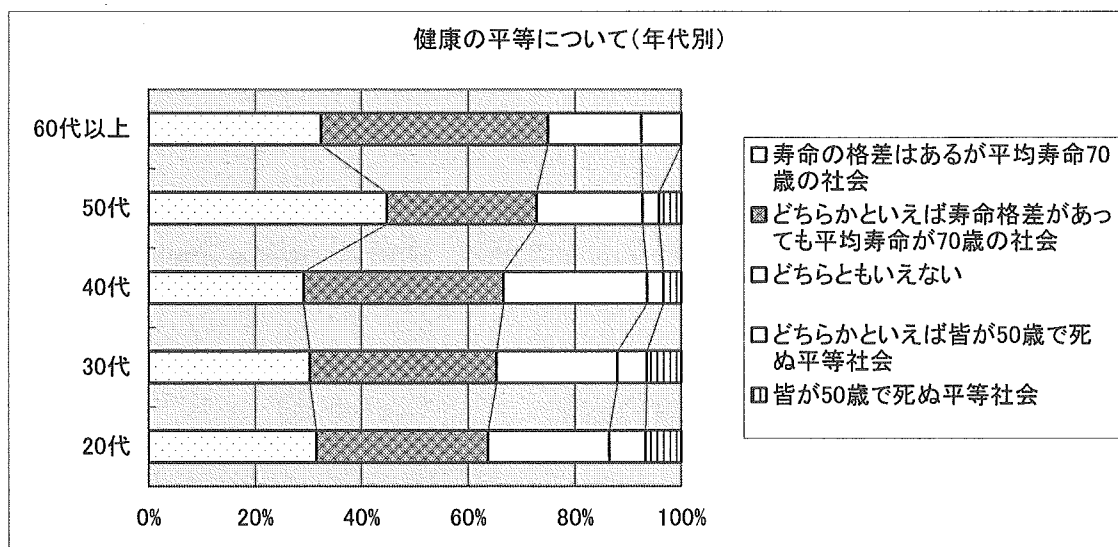


図 25 次に性別ごとに健康に関する平等意識を概観する。「寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」と「どちらかといえば寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」をあわせて、男女とも 65%ほどでありあまり差はない。また「寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」と「どちらかといえば寿命の格差はあるが平均寿命 70 歳の社会がよい」をあわせて、女性は 10%程度で、男性は 12%ほどと、この点でもあまり違いはない。

表頭：Q1 性別 表側：Q25 健康に関する平等意識

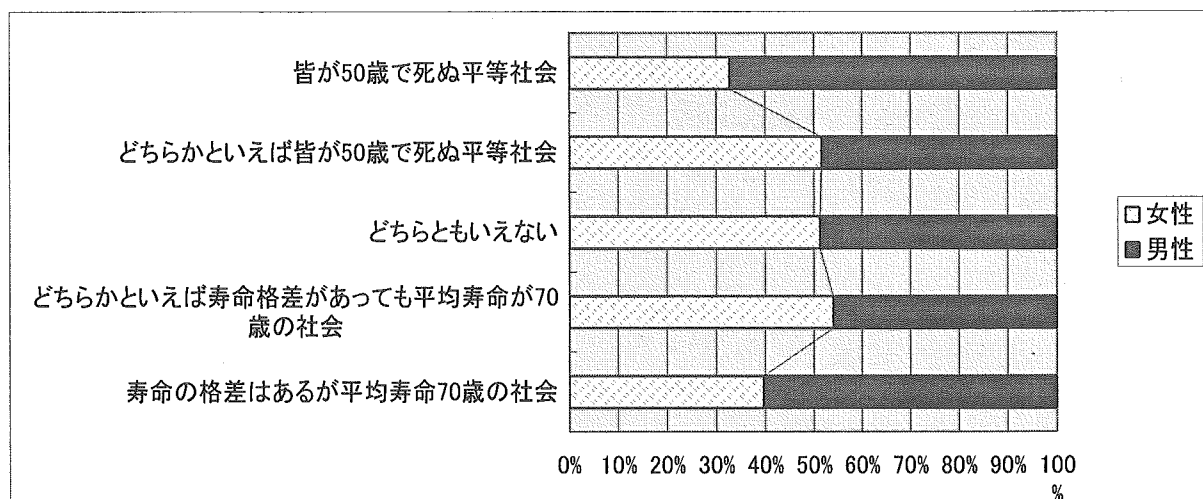


図 26 生活水準の認識

現在の生活水準に関して質問したところ、「ふつう」と回答した人が 54%と最も多かった。

「非常に豊かだと思う」および「概ね豊かだと思う」と回答した人は 31%程度で、「非常に貧しいと思う」および「概ね貧しいと思う」と回答したひとは 14%であった。

表側：Q26 生活水準に関する認識

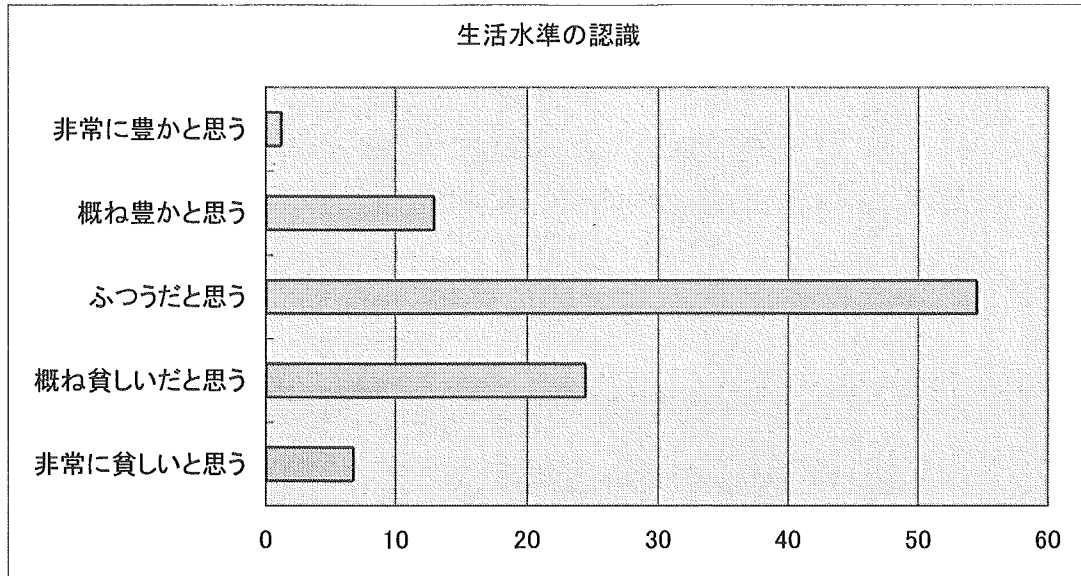


図 27 次に年齢層ごとに生活水準の認識を概観すると、すべての年齢層で「ふつうだと思う」が一番多い。「非常に貧しいと思う」および「概ね貧しいと思う」と思っているひとは、50代が最も多くて36%ほどになっており、30代が33%でそれに続いている。

一方「非常に豊かだと思う」および「概ね豊かだと思う」と思っているひとは、20代が最も多かった。

表頭： Q2_1 年齢層

表側： Q26 生活水準に関する認識

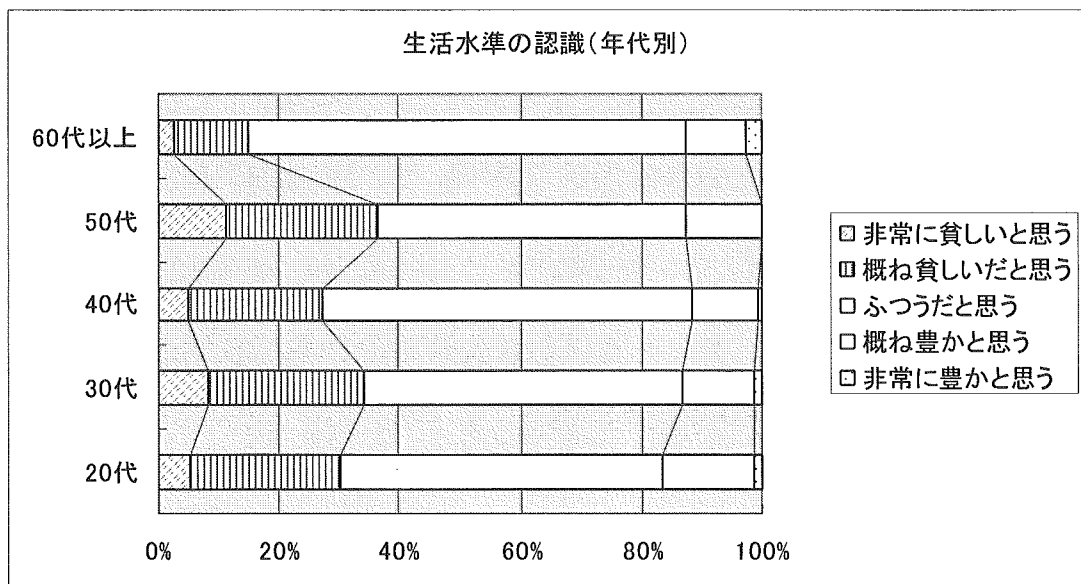


図 28 次に性別ごとに生活水準の意識を概観する。「非常に貧しいと思う」および「概ね貧しいと思う」と思っているひとは、女性が 29%であるのに対して、男性は 35%ほどである。一方「非常に豊かだと思う」および「概ね豊かだと思う」と思っているひとは、女性 16%、男性は 13%である。生活水準に関する意識については、あまり性差はないようと考えられる。

表頭：Q1 性別 表側：Q26 生活水準に関する意識

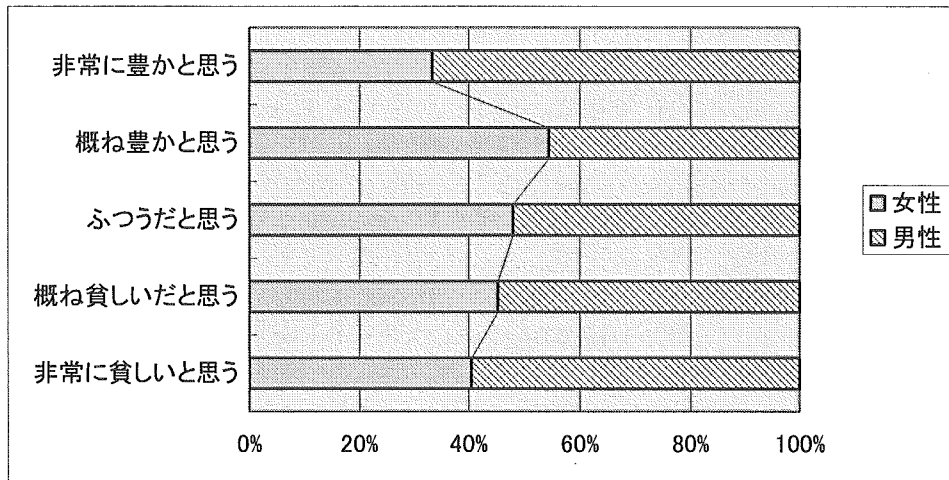


図 29 回答者に「いま、自分で幸せと思うか」と聞いたところ、「概ね幸せだと思う」と回答した人がもっとも多く、39%いた。「非常に幸せだと思う」という人もあわせると、現状を幸せだと思っている人は、52%になる。一方、あまり「非常に不幸だと思う」と「あまり幸せとは思わない」をあわせて現状を幸せだと思っていない人は、18%ほどいる。

表側：Q27 回答者の幸福に関する意識

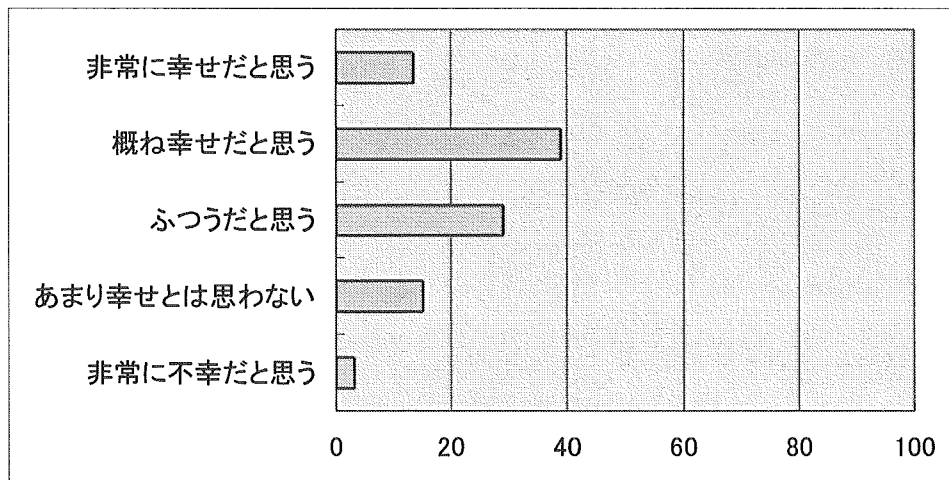


図 30 さらに年齢層別に幸福感について概観すると、「非常に不幸だと思う」および「あまり幸せとは思わない」というひとは、20代、40代で約20%と最も多く、「非常に幸せだと思う」および「概ね幸せだと思う」というひとは30代で最も多く、55%程度いる。しかし年齢層によってそれほど大きな違いはない。

表頭：Q2_1 回答者の年齢 表側：Q27 幸福に関する意識

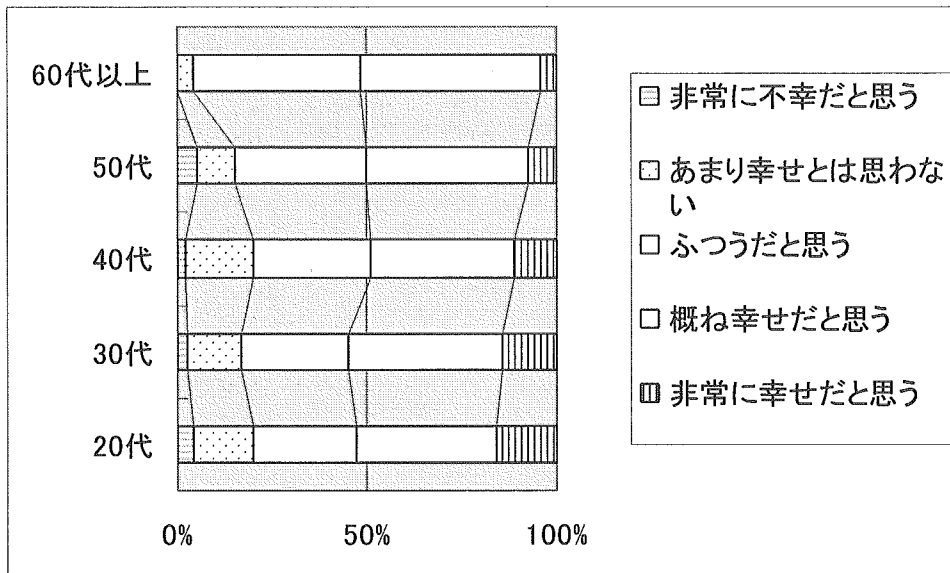


図 31 平等感, 羨望感に関して.

あなたは、あなたより豊かな生活をしている人たちが住む町で暮らすのと、貧しい人たちが住む町で暮らすのとどちらを選びますか？安全性や利便性などは変わらないとします。

この質問に対して、圧倒的に多かったのは「自分と同じくらいの生活をしている人たちが住む町」で、62%いた。

表側：Q28 平等感, 羨望感に関して.

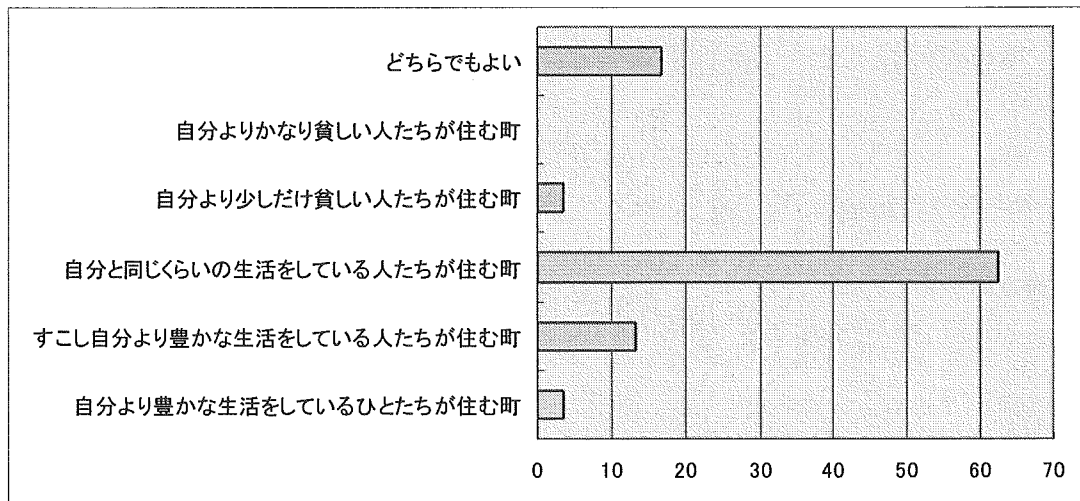


図 32 年齢層ごとにしてみると、「自分より豊かな生活をしているひとたちが住む町」および「すこし自分より豊かな生活をしているひとたちが住む町」を選ぶ人が、30代で若干多く、20%程度いるが、年齢層によって大きな違いはない。ただし、60代以上に関しては「自分たちと同じくらいの生活をしている人たちが住む町」を選ぶ人が他に比して若干多く、77%程度いる。

表頭 Q2：年齢層

表側 Q28：平等感，羨望感について

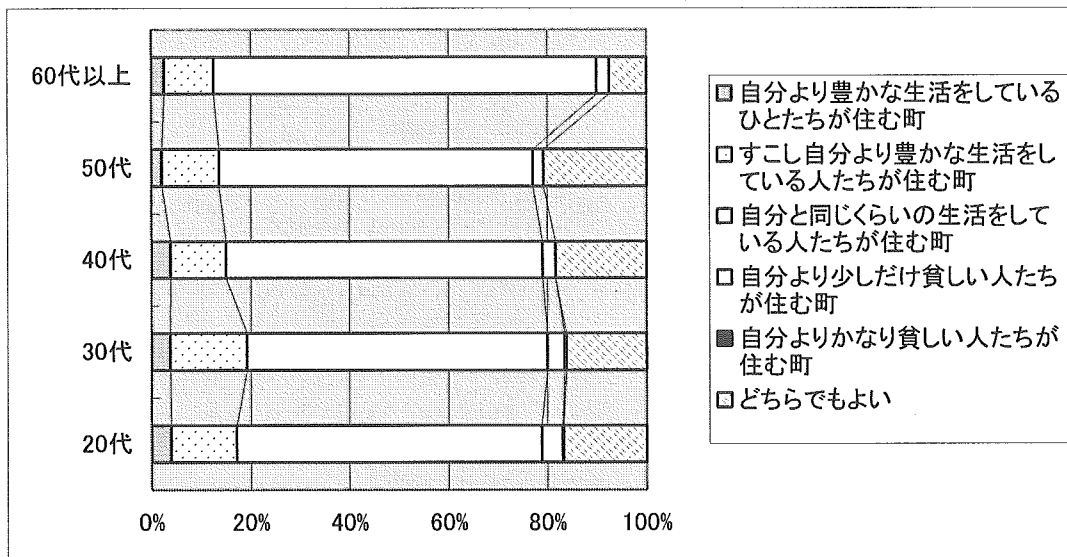


図 33 医療機関での経験について

これまでかかった医療機関のなかで、該当するような経験があったかをたずねた結果、医師に不信感を抱いたことのある人が61%あると回答した。一方で医師は自分の意志を尊重してくれたとの思っている人も、43%いた。

表側：Q29

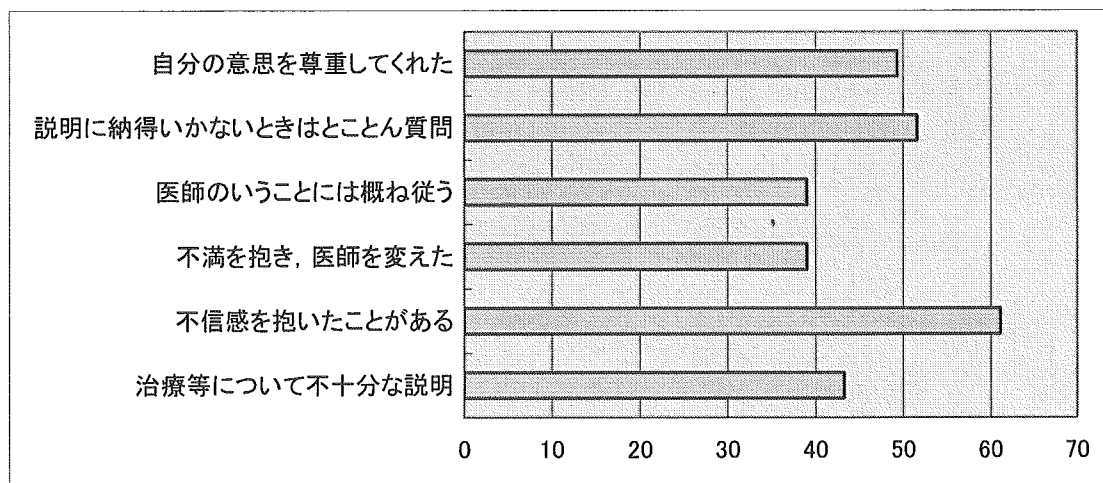
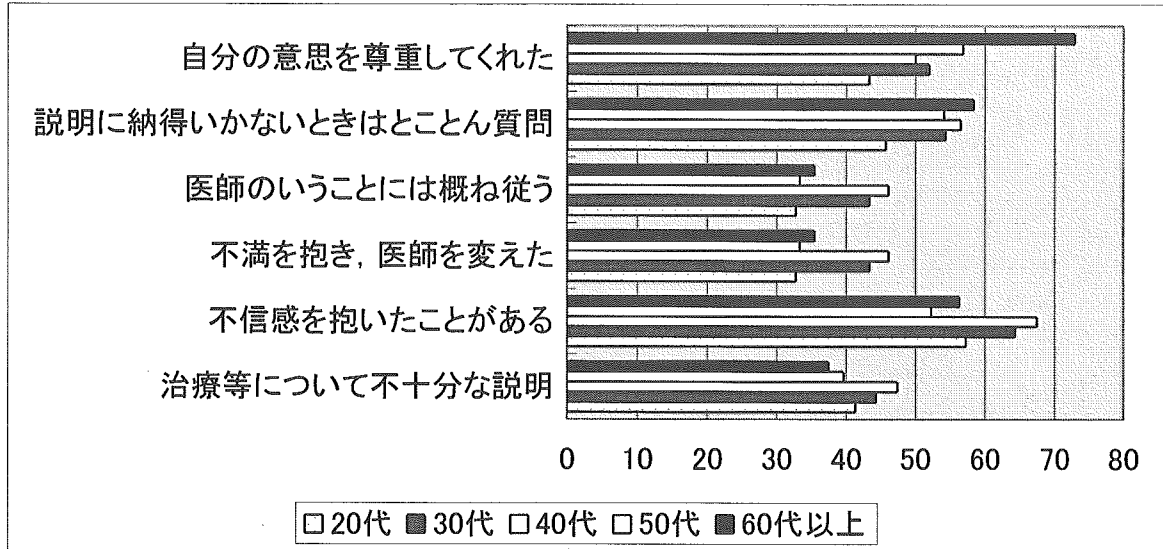


図 34 年齢層別に見てみると、各年齢層で大きな違いはないが、医師が自分の意志を尊重してくれたと感じているのは 60 代以上が最も多く、治療などについての十分な説明が無かったり、不信感を抱いたことがあると感じているのは、20 代で最も多かった。

表頭 Q2_1：年齢層 表側 Q29 医療機関における経験



Ⅲ その他個人属性

図 35 回答者の性別と年齢構成

表頭：Q1 性別 表側：Q2_1 回答者の年齢

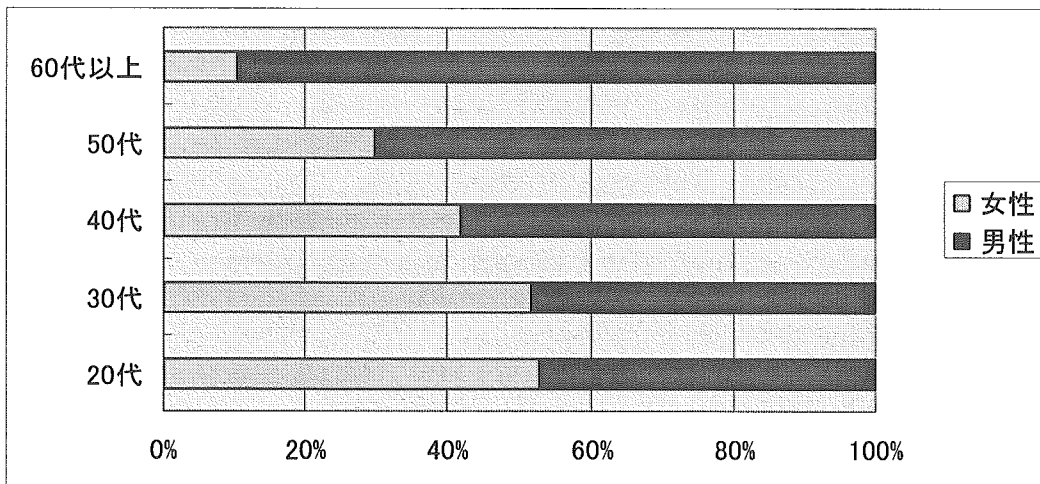


図 36 回答者の学歴と年齢構成. 20代は専門学校卒以上が総じて多く、その割合は概ね年齢層があがるにつれて小さくなる傾向にはあるが、60代以上になると多少大きくなる。

表頭：Q3 学歴 表側：Q2_1 年齢

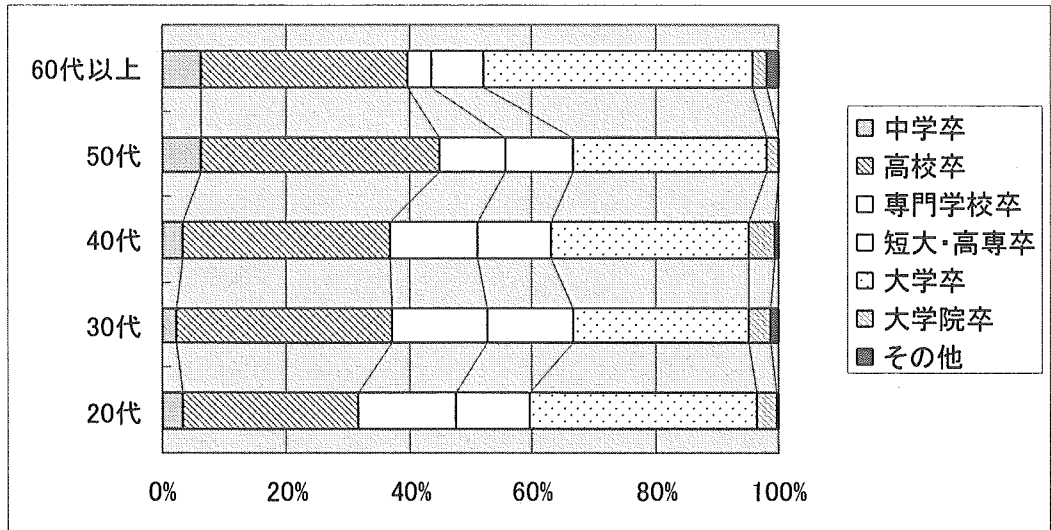


図 37 年齢別世帯人数

単身世帯は年齢層が上がるにつれて減少していく。最も多い20代で32%程度いる。60代以上は他の年齢層に比して圧倒的に二人世帯が多い。

表頭：Q3 同居し、生計を一にしている家族 表側：Q2_1 回答者年齢

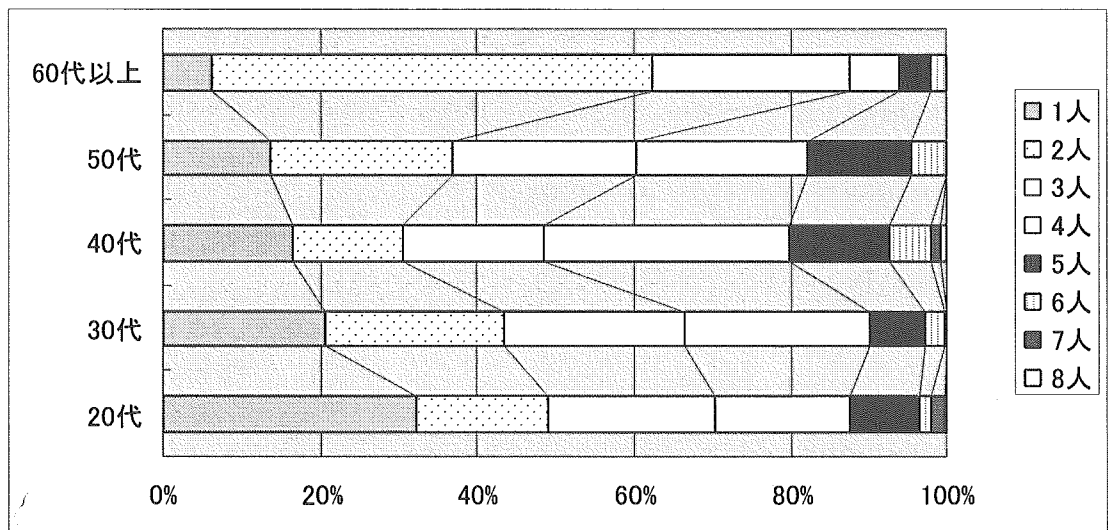


図 38 就労率は 20 代から 50 代までは 90% を超えるが、60 代以上は 58% に下がる。

表頭：Q5 就労の有無 表側：Q2_1 回答者年齢

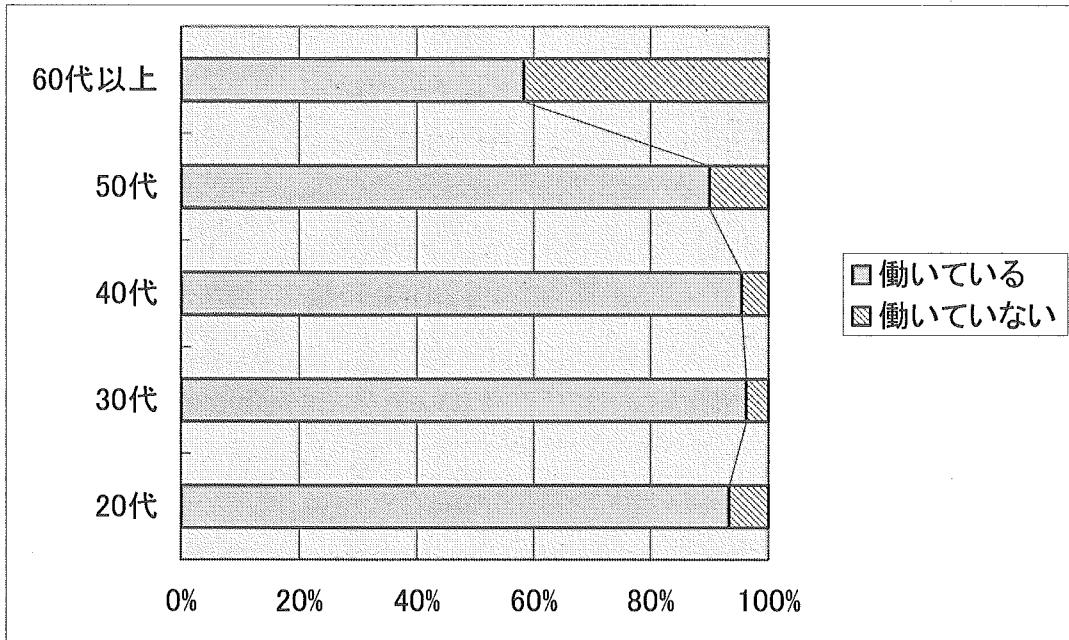


図 39 正社員・職員は 40 代、50 代で最も多く、それぞれ 49%、48% に達する。60 代になると定年が影響してか、15% 程度に低下する。自営業は年齢層が上がるにつれ増える傾向にあり、60 代で 19% と最も高い。

表頭：Q5 就業形態 表側：Q2_1 回答者の年齢

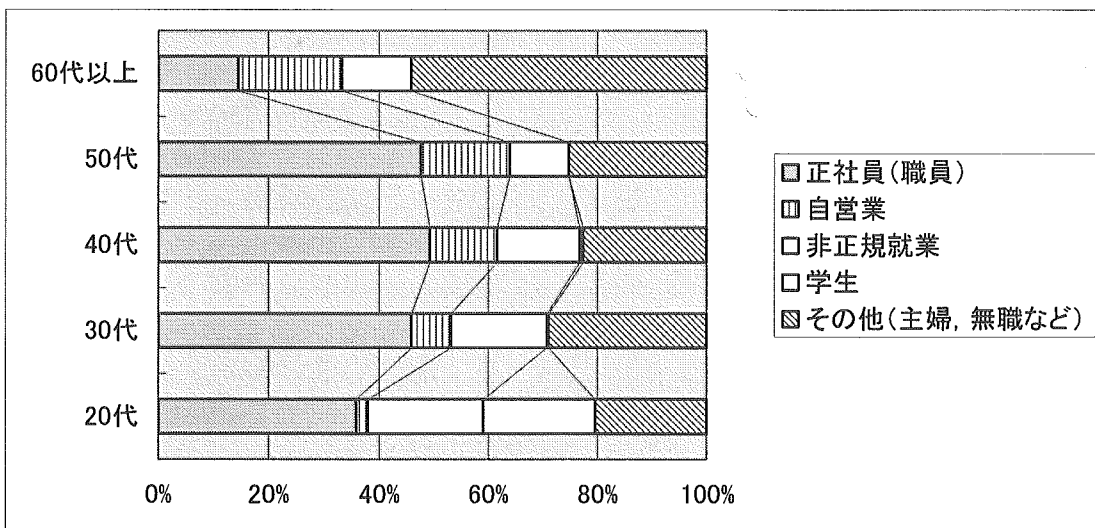


図 40 正社員にしめる男性の割合は 73%と、女性に比して圧倒的に多い。また自営業はさらに男性の占める割合が 81%に達する。反対に非正規就業（パートや派遣社員など）に関しては女性の占める割合が 70%であり、男性を逆転する。

表頭：Q1 性別 表側：Q5 就業形態

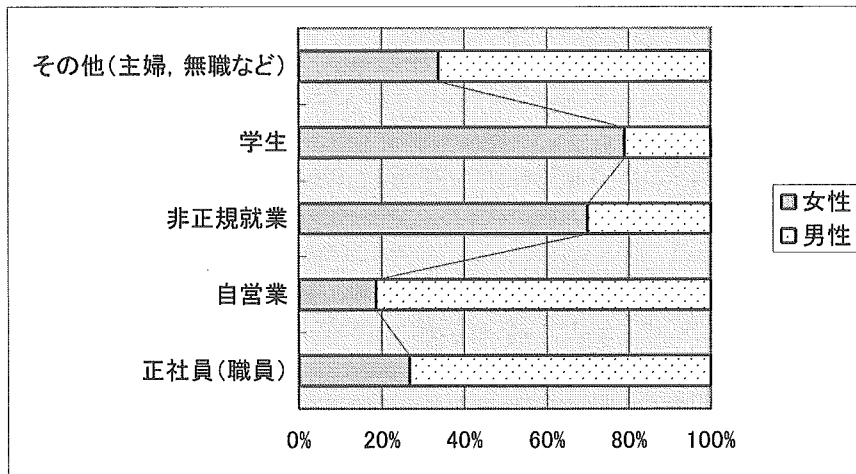


図 41 各職業に対する男性・女性が占める割合

女性が過半数を示す職業としては、医療・福祉、飲食・宿泊業、教育学習支援などが上げられる。

表頭：Q1 性別 表側：Q6 職種

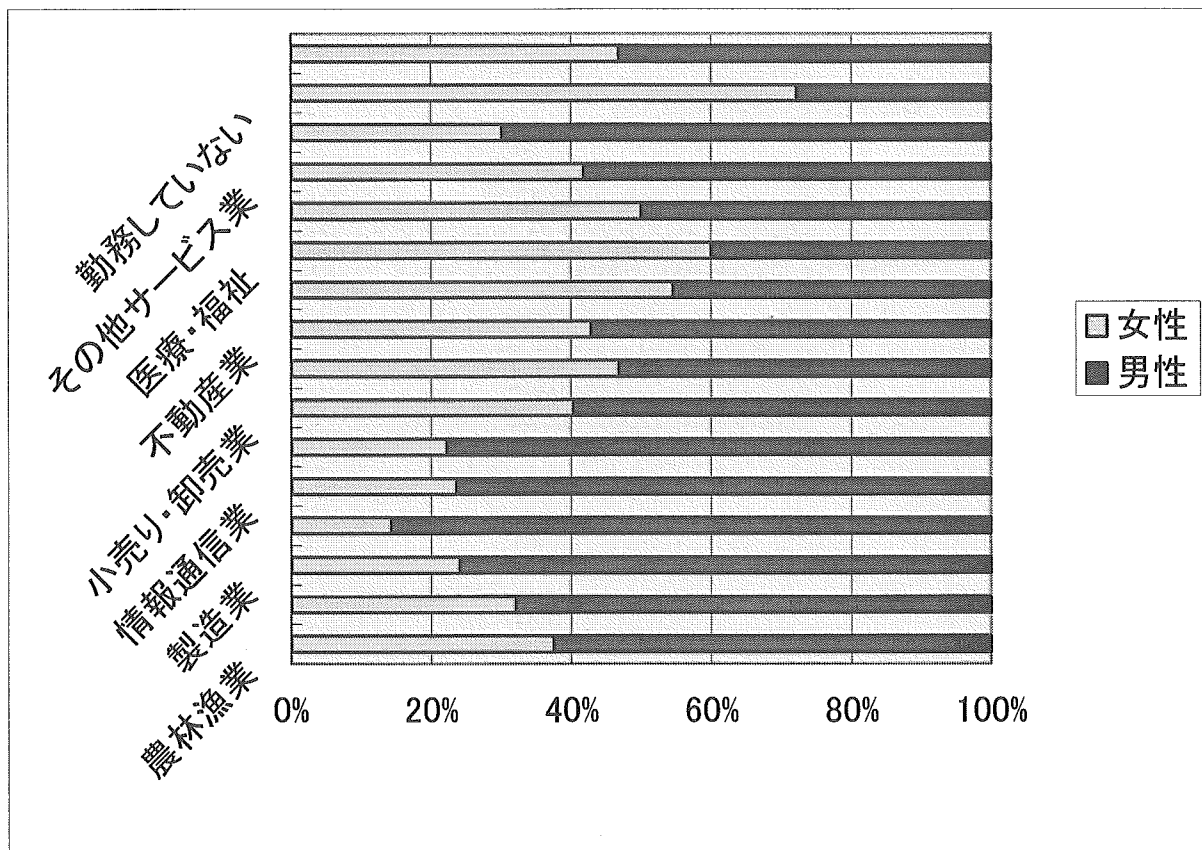


図 42

職種ごとに年齢構成をみてみると、情報通信産業や飲食・宿泊業では 20 代、30 代がその 8 割を占めている。比較的 60 代以上の人が多いのは、教育・学習支援、運輸業などである。

表頭：Q2_1 回答者の年齢

表側：Q6 職種

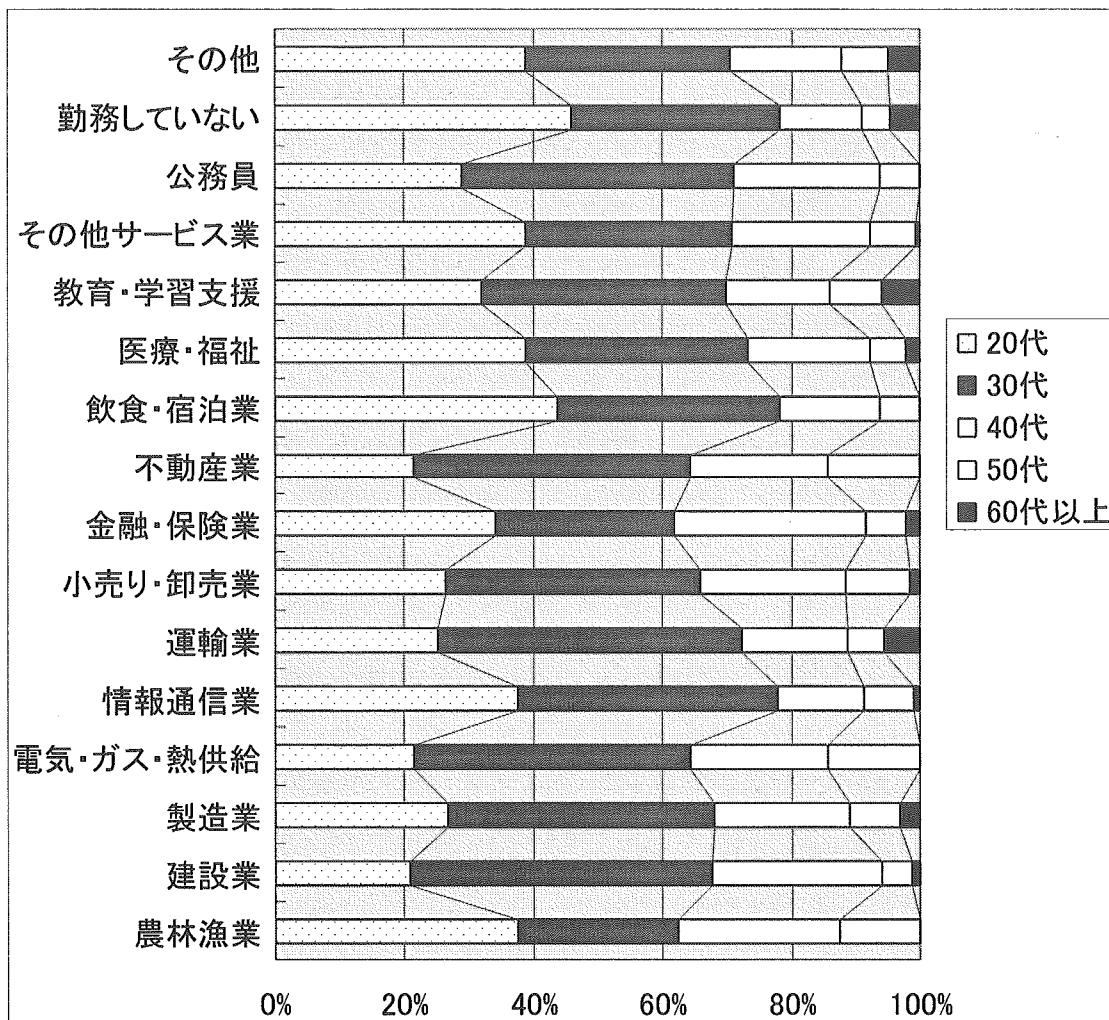


図 43 20代は世帯収入 300~400 万未満が最も多く、30代は 300~400 万未満および 400~500 万未満が同程度に、40代は 500~600 万未満および 600~700 万未満が同程度に、50代は 900~1000 万未満が最も多い。このように年齢層が上がるとともに高い世帯収入を得ている家計が増える傾向にあるが、60代以上では 300~400 万未満の家計が最も多くなる。

表頭：Q7 昨年度の世帯年収 表側：Q2_1 回答者の年齢

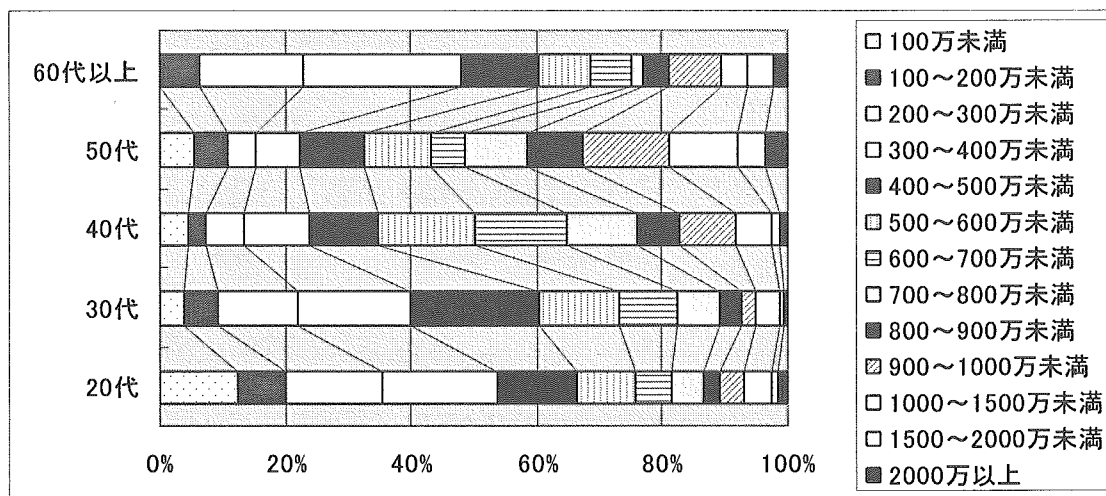
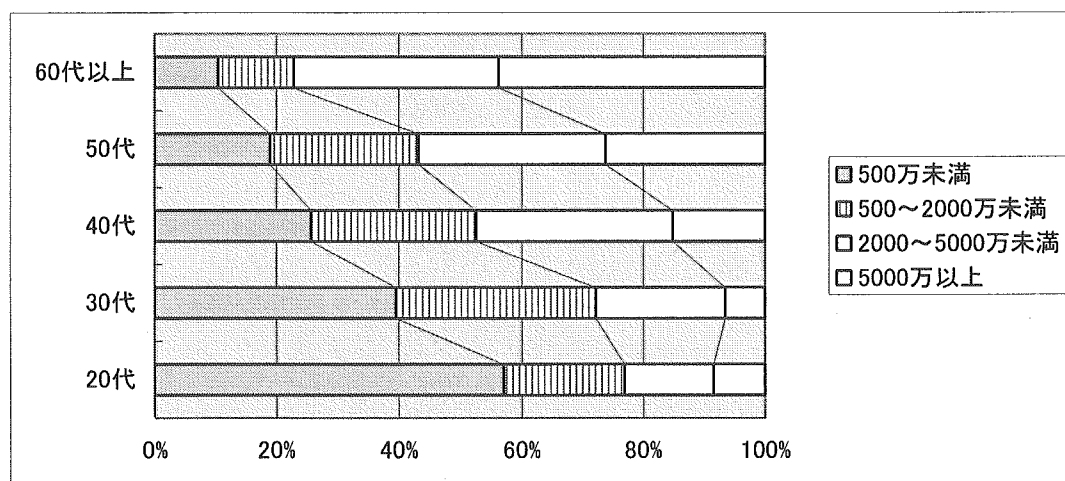


図 44

年齢が上がるとともに、おおむね世帯あたりの資産額（土地・住宅資産および金融資産）は上昇する。渡航に 60代は他の年齢層に比して 5000 万以上の資産を所有している世帯が多く、44%ほどいる。60代以上で資産額 500 万未満の世帯が 10%程度なのに対して、20代では 57%いる。先に、所得と年齢の関係では、50代までは年齢が上がるとともに世帯収入が増え、60代以上で急に下がる傾向が観察されたが、資産に関してはその逆の傾向がみとれる。

表頭：Q8,Q9 資産総額（土地・住宅および金融資産）表側：Q2_1 回答者の年齢



Ⅲ. 調査票

問 1 あなたの性別を教えてください。

男性

女性

問 2 あなたの年齢を教えてください。また現在同居して生計をともにしている方で次の該当者がいれば、その方の年齢を教えてください。該当者がいない場合は「該当者なし」を選んでください。

表側

ご本人

配偶者の方

お子様（一人以上いらっしゃるときは末子の年齢）

表頭

0～3歳未満

3～9歳未満

10代

20代

30代

40代

50代

60代以上

該当者なし

問 3 現在同居して生計をともにしているご家族（あなたを含め）は何人おられますか？

1人（単身）

2人

3人

4人

5人

6人

7人

8人

9人

10人以上

問 4 あなたと配偶者、およびあなたの父親、母親の最終学歴を教えてください。
配偶者がいない場合はその他をお選びください。

表側

ご本人
配偶者の方
ご本人の父親の学歴
ご本人の母親の学歴

表頭

中学卒
高校卒
短大・高専卒
大学卒
大学院卒
その他

問 5 あなた、および配偶者のかたの就業形態であてはまるものを教えてください。配偶者がいない場合はその他をお選びください。

表側

正社員
自営業者
契約社員
派遣社員
パート・アルバイト
臨時・日雇い
請負社員
専業主婦
無職
学生
失業（雇い主の都合によるもの）

失業（自分の都合によるもの）

その他

表頭

ご本人
配偶者の方